

実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	平成24年度 学芸員等短期在外派遣研修
実践事例名（テーマ）	科学コミュニケーターの育成を通じて形成されるネットワーク —デンバー自然科学博物館・宇宙科学展示室から学ぶ
事業主体（実施機関）	公財）日本科学技術振興財団・科学技術館
連携・協力機関等	デンバー自然科学博物館（米国・コロラド州）
発表者	木村 かおる

期日 2015年 12月 10日

内 容

本発表では、平成27年度のテーマである「博物館における情報発信とネットワーク」の観点から、発表者が平成24年度に実践した研修内容のうち「科学コミュニケーターの育成を通じて形成されるネットワーク」について紹介する。

近年は、科学技術の進歩が目覚ましく、科学系博物館においては展示物がすぐに陳腐化してしまうことが多い。そのため科学技術館でも、固定された大型展示より、双方向対話型による「科学を伝える」ワークショップ形式のプログラムを多く実施している。今回の在外派遣研修では、発表者がこれまで実践してきた大学や研究機関との連携事業を踏まえ、グローバルな視点から地域性や館の特徴を活かした連携とはどうあるべきか、また、教育の視点から科学コミュニケーターの育成と、それに必要なネットワークづくりについて学ぶことができた。

本研究の調査では、デンバー自然科学博物館の宇宙科学の展示室には、「Galaxy Guide」と呼ばれるボランティアが300人ほど登録している。ボランティアの多くは60～70代で、週末などは中学生や他分野の研究者なども参加している。彼らは必ずしも理工系出身者ではなく、「天文が趣味だった」、「時間ができたので宇宙のことを勉強したくなった」といった動機でボランティアを始めている。彼らがどのように専門外の展示解説をするまでに至ったか、そのトレーニング方法や情報提供について、ボランティア運営も含め述べてみたい。さらに継続した学習をサポートするためのネットワークづくり、展示室における研究者の役割と展示室運営フローを紹介する。また、本研究で得られたプログラムの実施や連携事業などを紹介したい。

最後に、カナダのエドモントンで公開された特別展「Star Wars Identities」における、マルチメディアを活用した展示と情報発信のユニークな事例を紹介する。

〔参考文献〕

「北米の科学館から —インタラクティブ・コミュニケーションの形」『博物館研究』
Vol. 48 No. 4, 2013